

情報学シンポジウム2022

『Research Transformation～これからの大学で社会に広がるテーマを育てるには～』



◆井上浄氏プロフィール

東京薬科大学大学院薬学研究科博士課程修了、博士（薬学）、薬剤師。2002年、大学院在学中に理工系大学生・大学院生のみでリバネスを設立。博士過程を修了後、北里大学理学部助教および講師、京都大学大学院医学研究科助教、慶應義塾大学特任准教授を経て、2018年より熊本大学薬学部先端薬学教授、慶應義塾大学薬学部客員教授に就任・兼務。経済産業省「未来の教室」とEdTech研究会委員、スタートアップ、エコシステム形成支援委員会の委員などを務める。研究開発を行いながら、大学・研究機関との共同研究事業の立ち上げや研究所設立の支援等に携わる。多くの研究開発型ベンチャー企業の立ち上げにも携わっている。

<日時>

2022年12月26日（月）13:30-15:10

<会場>

共通講義棟2F 大講義室（共21）

<プログラム>

12:30-13:30 受付・開場

13:30-13:40 開会の挨拶（笹原情報学部長、竹内情報学研究推進室長）

13:40-14:25 井上氏の講演と公開ディスカッション

14:25-14:35 「外側」からの提案・これからのプロジェクトの紹介

14:35-15:05 交流会

15:05-15:10 開会の挨拶（竹内情報学研究推進室長）

<講演概要>

大きな研究テーマを生み出す研究者には何が必要なのか。

テーマ創出に必要な視点について自らも研究テーマを多く生み出し、研究しながら研究者の研究支援も行ってきたリバネスから伝えます。

井上氏の講演内容

■内容案

①自己紹介と連携研究事例紹介：

- ・中高生とつくる「研究」
- ・組織を超えた異分野チームでつくる「研究」
- ・研究部門を持たない企業とつくる「研究」

②いま、生まれている「変化する研究者」たち

- ・企業や大学の研究所の課題
- ・外部との異分野連携で変化する研究者

③発想のブレークスルーに必要な考え方

- ・突破する個（ベクトルの可視化とQPMI）

④公開ディスカッション

静岡大学情報学部の研究者への連携仮説の提案